

# 知的資本戦略

## 国際標準化活動の積極的な推進

市場のグローバル化に加え、ICTや協働ロボットなどの新たな技術開発が進む中、誰ひとり取り残されることのない安全な労働環境を実現することは、新たな社会課題となっています。国際標準化活動など、社会ルール形成を通じた社会課題の解決を進めることで、安全・安心でウェルビーイングな社会、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

関連するマテリアリティ

- 生産性向上
- 安全・安心・ウェルビーイング

### 社会ルール形成を通じた社会課題の解決

IDECでは、国際標準化活動に積極的に参画することで、社会ルール形成に携わってきました。1960年代から1990年代までは、主にルールを活用することで市場を拡大してきましたが、1990年代からはIEC(国際電気標準会議)やISO(国際標準化機構)の専門委員会に積極的に参画し、グローバル社会における、新たな技術開発に対応した国際安全規格づくりを提案、推進するなど、IDEC自身がルールを形成していく活動を積極的にを行っています。

2017年以降は、Vision Zeroやウェルビーイングといった、新しい考え方を基にしたルールを創成する活動に注力することで、パーパスである「人と機械の最適環境を創出し、世界中の人々の安全・安心・ウェルビーイングを実現する」ことを目指しています。

国際標準化活動を3つの分類で定義しており、専門部隊である「国際標準化・協調安全4次元推進部」を本社内に設置し、さまざまな活動を推進しています。3つの中でも特に、日本のリーダーシップで世界に提唱する、「創成型」や「先行型」の国際標準化活動に注力しており、OJTを通じた人材育成も継続的に行うことで、事業のさらなる成長を目指しています。

### IDECにおける国際標準化活動の分類

- 戦略的創成型** 人・モノ・サービスにおける、新たな国際標準・認証等のルール・仕組みを創成していく活動
- 戦略的先行型** 国際標準を主導的に変更・改定することや、入手した情報に基づいて、他社に先駆け事業拡大等に活用する活動
- 受動的対応型** 製品の開発や設計変更の際に、国際標準への適合性を確認するなど、現在の事業を継続するための活動

### IECにおける活動

IECに設置されている6つの技術諮問委員会のうち、安全諮問委員会(IEC ACOS)で、日本代表として協調安全(Safety2.0)を紹介し、協調安全に関するIECガイド作成の必要性を提案しました。その結果、2022年にIECガイドの開発が承認され、今後各国の投票を経て正式に発行される見込みとなっています。

また、さまざまな国際標準化会議にエキスパート登録し、国際規格開発に参画することで、グローバルシェア90%以上となる3ポジションイネーブルスイッチの規

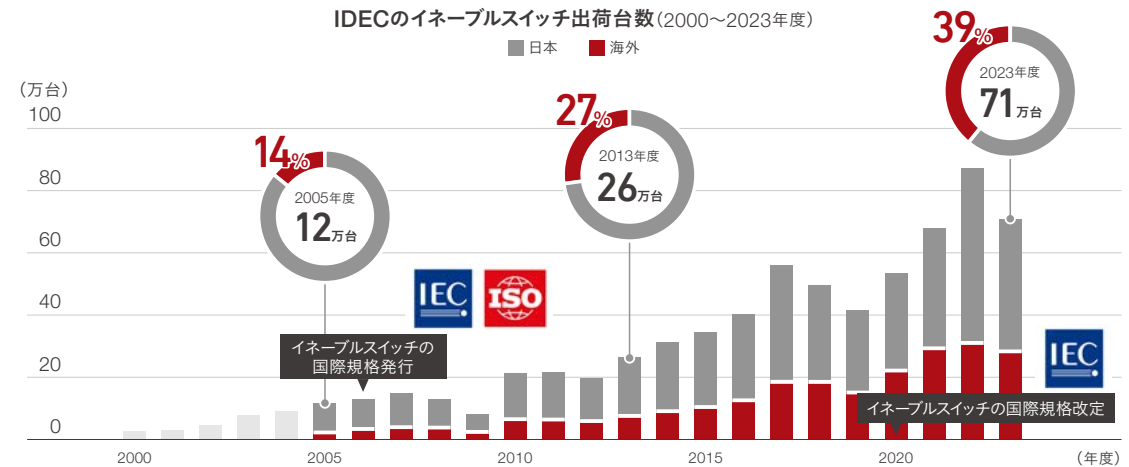
格開発や、非常停止用押ボタンスイッチ規格の改定に大きく貢献しました。イネーブルスイッチは、2023年度までの累計出荷台数が約71万台となり、国際規格を創成して以降、海外での売上も大きく伸長し、生産現場や建設業界など幅広い現場における、安全・安心・ウェルビーイング向上に貢献しています。

### ISOにおける活動

ロボットの安全に関する技術委員会のワーキンググループに参画し、協働ロボットを含めたさまざまな産業

用ロボットや、ロボットセル、システムの安全性の国際標準である、ISO 10218シリーズの開発を行っています。

自動車や半導体産業の拡大、ものづくりの自動化、労働人口減少による人代替作業の増加など、産業用ロボットの活用が世界中で拡大するとともに、人との作業を安全に行うためのHMIや関連機器が必要とされています。IDECは、安全・安心・ウェルビーイングの拡大に有効な、さまざまなHMI・安全関連機器を提供していることから、これまで培ってきた製品知識・安全知識により、規格の開発・改定に貢献しています。



## 人材育成

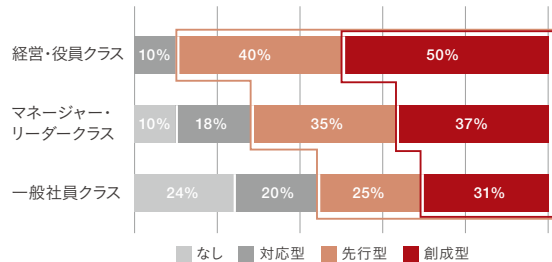
IDECでは、国際標準化活動をグローバル市場で勝ち続けていくために必要不可欠な戦略と考えており、社員教育にも注力しています。イントラネットや社内報でさまざまな情報発信を行っており、これまでの活動内容を説明する動画なども配信しています。

その結果、活動内容に関する社内認知度は高く、将来関わりたい国際標準化活動のタイプに関するアンケートでは、一般社員の過半数が「先行型」と「創成型」の活動に関わりたいと回答するなど、意欲が高い結果となっています。



IDECの国際標準化活動を紹介する動画

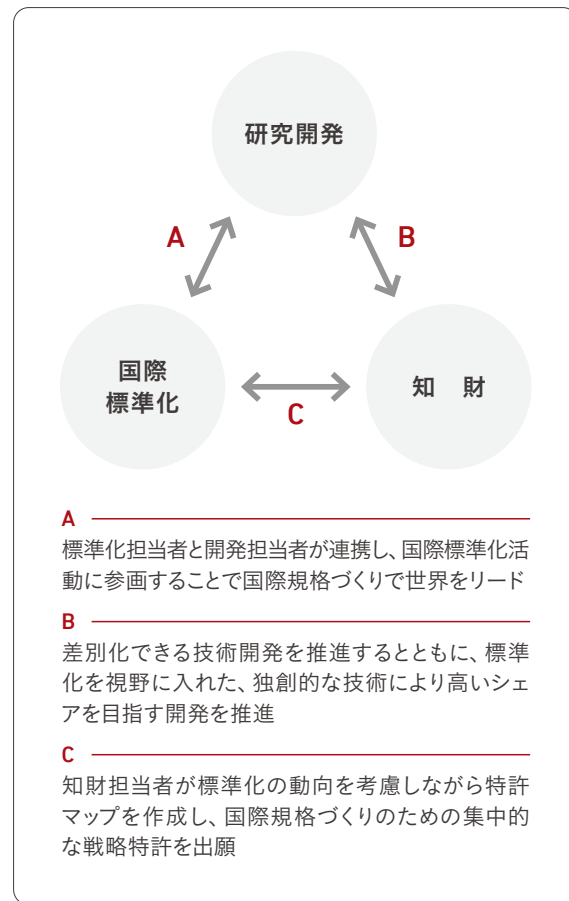
将来関わりたい国際標準化活動のタイプに関する社内アンケート結果



## オープン&クローズ戦略の推進

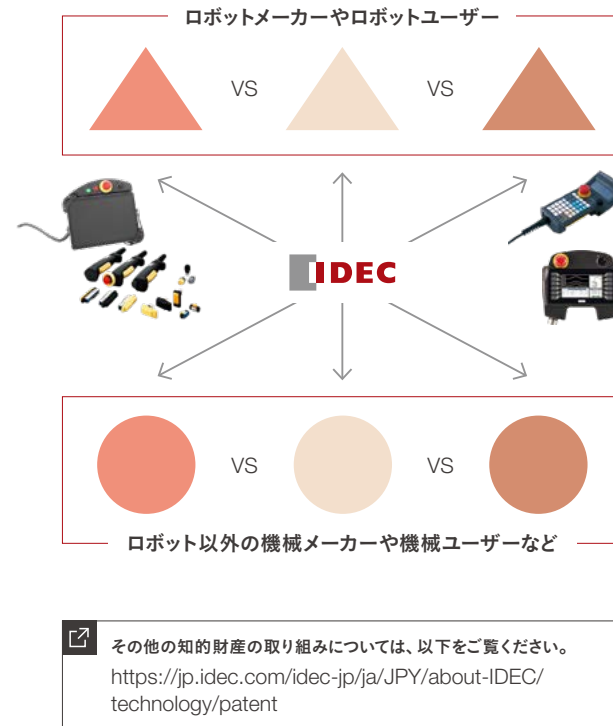
知的資本戦略の一環として、オープン&クローズ戦略による事業活動を推進しており、国際標準化に加え、研究開発と知財が三位一体となった開発推進体制としています。

三位一体の活動とは、以下のような取り組みとなります。



またオープン&クローズ戦略とは、利益を生み出す自社のコア技術をクローズ領域としつつ、それ以外の技術をオープン領域とすることです。多数の企業が競合している領域で戦うのではなく、オンリーワンとなれる領域で、知財や国際標準化による参入障壁を築くことが重要なポイントとなります。

例えばイネーブルスイッチの場合では、重要な技術の特許を取得するだけでなく、国際標準化を推進することで、国内外の多くのロボットメーカーや機械メーカーで採用される状況をつくり、グローバルシェア90%以上という圧倒的なシェアと、高い収益性を実現しました。



## これまでの活動をご評価いただき、内閣総理大臣表彰や市村賞を受賞

IDECでは、主力製品であるスイッチの国際規格が欧米主導で作られたため、国内・アジアで主流だったスイッチ取付用パネルの丸穴サイズが国際規格から外れてしまい、国内外でシェアを落とした苦い経験があります。この経験から、名誉顧問の藤田俊弘は、日本から国際標準化活動を行うことの重要性を知り、多くの欧米企業や標準化機関、認証機関を訪問し、交流を重ねることで、日本リードでの国際標準化活動の牽引役として尽力してきました。また、IDECが国際規格化を主導した3ポジションイネーブルスイッチは、今ではロボット作業者の安全・安心・ウェルビーイングを実現するために欠かせない製品となっています。

これまでの活動をご評価いただき、2022年に経済産業省の令和4年度「産業標準化事業」において藤田が内閣総理大臣表彰を受賞しました。また、日本の科学技術の進歩、産業の発展に貢献した技術開発者を表彰する伝統と権威ある市村産業賞の功績賞を福井孝男、延廣正毅、藤田の3名が受賞し、彬子女王殿下にご臨席賜りました贈呈式が2024年4月に執り行われました。

